補習校だより

２０２０年２月１７日発行

日差しが暖かくなってきました。しかし、まだ地域によっては突然大雪が降り、寒の戻りでしょうか。まるで冬と春がせめぎ合っているかの様です。

今月はイラン暦の 12 月、春分の日には新しい年 1399 年を迎えます。ペルシャ伝統文化であるエイデノウルーズです。新年にお客様を迎えるにあたって、家中を丸洗いするかの様に大掃除をしたり、買い出しに出かけたりするのもイラン年末の風物詩です。

今月（エスファンド月）の予定

	イラン暦	西 暦	
第 19 回目授業	1398/12/1パンジシャンベ	2020/2/20(木)	通常授業
第 20 回目授業	12/8 パンジシャンベ	2/27(木)	短縮授業 「先輩の話を聞いてみよう(大学編)」
第 21 回目授業	12/15 パンジシャンベ	3/5(木)	短縮授業 職業体験談
第 22 回目授業	12/24 パンジシャンベ	3/12(木)	通常授業

※3 月 13 日～4 月 15 日までノウルーズ休みとなります。4 月 16 日(木)から授業再開です。

☆作文紹介☆

☆二・四年生クラス

小学四年教科書『ごんぎつね』の感想文です。

「ごんぎつねを読んで」　　青山愛沙

この話は、ごんといういたずらぎつねが主人公のお話です。兵十というお百姓がつったうなぎをにがしてしまいました。その後兵十のお母さんが死に、ごんはお母さんがうなぎを食べたいと言って死んだと思い、そのつぐないをするために、いわしやくり、松たけなどを持っていきました。しかしそれを知らない兵十は加助という百姓と話し、神様のしわざと思い毎日お礼をすることにしました。ある日くりを持って兵十の家へ出かけた日、土間にくりを置いて帰ろうとすると、運悪く兵十に見つかり火なわじゅうでうたれるという悲しいお話です。

作者はいたずらをしてはいけないけれど、ごんみたいにつぐないをするのはいいことだ、ということをつたえたかったのだと思います。

ごんぎつねはとても悲しいお話ですがごんや兵十の会話や行動にどきどきしてきます。

とてもいいお話でした。

☆五・六年生クラス

小学五年教科書『大造じいさんとガン』の感想文です。

「大造じいさん」　　長谷川アナヒタ

私は、大造じいさんの話を読んでおじいさんはやさしいと思いました。なぜならおじいさんはガンをじゅうで打つ機会はありましたが、残雪ががんばって仲間を守る場面を見てじゅうを下ろしました。

私が一番感動した話の部分は、大造じいさんはりょうしだったので動物を殺すのは、簡単です。でも残雪の行動がりっぱだと思い殺さなかった場面です。わたしはおじいさんも残雪に負けずにりっぱだと思いました。

六年生は『この絵、私はこう見る』という単元で絵から読み取ったことを作文に表現しました。

「絵を見て思ったこと」　　かとうルミナ

私は、この絵は、風のおにとかみなりのおにの二人が、楽しそうにおどっている姿に見えます。

俵屋宗達 『風神雷神図屏風』

まず二人の姿を見てください。一見こわそうな顔のおにですが、まゆげは下がっているし、目元がまんまるくて、おこっているイメージには見えません。

この絵の中の二人は向き合っているので、けんかしそうなふんいきですが、私には、二人が何かのお祝いで、楽しくおどっているように見えます。

☆中学部

中三教科書『アラスカとの出会い』の感想文です。

「アラスカとの出会い」　　鈴木沙奈

私がこの作品を読んで思ったことはいくつかあります。

まず、星野道夫さんが十七才のときにシシュマレフ村に手紙を送ったということを読んで驚きました。そして、この年から好きなことや行きたい場所が決まっていて、すごいと思いました。

十九歳でカリブーの写真を撮ったり、グレイシャーベイへ行ったり、オーロラの神秘的な光を見ることができるなんてとても羨ましいです。

そして、シシュマレフ村に行きたいと思い、その村に手紙を送るきっかけとなった写真を撮った人から会いたいと言ってもらえた星野さんはとても運が良いと思いました。

私もこのように人生が変わる小さな出会いがほしいなと思いました。

編集後記

エスファンド月はイランの年末になりますが、日本では同じ頃、桃の節句やお彼岸、卒業式のシーズンです。全く雰囲気は違いますが、どちらの国にとっても特別な情緒のある季節に思えます。春が近づき、日差しも暖まり草木が芽吹く美しい時期でもあります。

本当に忙しい現代ですが、ふと立ち止まって草花を愛でてみて下さい。自然の恵みに癒されるはずです。

素敵な春を迎えましょう。